

平成29年度 事務事業評価シート(実施計画事業 **経常事業**)

事業の概要	事務事業名	少年センター管理運営事業						担当部	こども未来部		
	会計区分	一般会計						担当課	こども政策課		
	事業期間	平成26年度以前			～ 平成30年度まで			担当係	青少年育成係		
	基本施策・展開方向	3 教育・子育て		13 子育て支援		4 健全な青少年を地域で育てます					
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市少年センター設置条例									
	目的	何・誰を対象に	市民、小学生、中学生								
		どの様な状態にするのか	<p>◆28年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭補導活動、青少年非行防止のための会議、研修、各種行事への参加、学校・警察等との連携、青少年健全育成相談業務、少年センター運営協議会、補導員会の開催、環境浄化活動や危険箇所点検活動、協力店舗訪問活動。 ・少年センターへは6人の嘱託職員を配置し、日常的なパトロール・相談活動を実施。 ・市内各中学校区に85人の少年センター補導員を委嘱、随時地域パトロールを実施。 ※補導員は、2,000円/月の謝礼支払 ・市内各中学校区に52人の青少年健全育成モニターを委嘱、いろいろな視点から問題点を指摘してもらっている。 ・少年センターの職員は、学校教育課、こども政策課(子育て支援係)、保健センターが主管する会議に出席し、連携及び情報交換をしている。 ・学校からの支援が受けられない高校卒業、中退者本人や、保護者の支援を目的として、臨床心理士によるカウンセリングを行っている。 <p>◆28年度直接経費の内訳(支出ベース)</p> <ul style="list-style-type: none"> 報償費(少年センター補導員、カウンセラー謝礼)(2,843千円) 旅費(76千円) 需用費(消耗品費等)(977千円) その他、役務費、事務機器保守管理委託料等(531千円) <p>◆29年度直接経費の内訳(予算ベース)</p> <ul style="list-style-type: none"> 報償費(少年センター補導員、カウンセラー謝礼)(3,026千円) 旅費(32千円) 需用費(消耗品費等)(977千円) その他、役務費、事務機器保守管理委託料等(772千円) 								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか										
	受益者負担	無									

			単位	H26決算額	H27決算額	H28決算額	H29予算額	
	コスト	費用	直接経費		千円	4,380	4,143	4,427
正職員			従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50
			人件費	千円	2,814	2,814	2,814	2,814
その他職員			従事者数	人	6.00	6.00	6.00	6.00
			人件費	千円	14,521	14,963	15,213	15,427
費用合計			千円	21,715	21,920	22,454	23,048	
対前年比		%		100.9	102.4	102.6		
財源	一般財源		千円	21,715	21,920	22,454	23,048	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	0	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	指導員・補導員街頭補導活動	回	目標		400	400	450
実績				441	531	509	
延補導活動従事者数	人	目標		1,300	1,300	1,300	1,300
		実績		1,402	1,443	1,367	
績	成果指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	補導人数(声かけ程度を含む)	人	目標		—	—	—
実績				230	175	252	
相談人数	人	目標		—	—	—	—
		実績		88	172	181	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成28年度の実施結果	事業の達成状況	指導員、補導員の街頭歩道活動については、目標値を上回った。補導人数が増加したが、予防として行った声かけ程度の人数で占めている。また、相談人数が年々、増えてきている状況である。				
		事業実施における課題	スマートフォン・携帯電話を持つ年齢層が低くなってきており、小学5年生男子が増えてきている。また、ネット媒体を介して出会いも、中学生・高校生で増えてきている。補導と違い、目に見えない課題に対し、今後、家庭、学校と連携してこども達へ、スマホ等の正しい扱い方を指導していく必要に迫られてきている。				
	平成29年度の実施内容	29年度における実施内容や結果見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・非行防止を推進していくため、補導員会において、警察や学校からの現況報告をいただいたり、外部講師を招いて研修会を開催し、地域で環境整備に努めていく。 ・相談人数が増えていることから、青少年健全育成市民会議運営委員会において、臨床心理士を招いて講話を開催し、相談現場の現状を知り、情報共有を進めていく。 				
	平成30年度の事業の方向性	方向性の判定	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの			
	削減額・削減対象	事務事業評価による額	90	千円	予算区分	11	節
	判定理由・削減内容	成果指標で、相談人数の実績が増えてきていることから、徐々に市民に認知されてきている。市民への啓発印刷物の作成において、「明るい声かけ運動」チラシが年1回4月に、小学校1・3・5年生の保護者及び教職員へ配布している。同じく、悩み相談機関案内チラシも上質紙印刷で作成して、年1回4月に全小中学校の保護者及び教職員へ配布している。ともに内容に遜色がなく、重複する点もあるので、「明るい声運動」チラシ作成を見直し、29年度予算額(11節需用費4細節印刷製本費405千円)から90千円分の削減を図る。					
	30年度以降の実施内容	印刷製本費部分の縮小を図るが、平成30年度は少年センターをラピオへ移転を準備していくため、移転作業や事務機器設置に関する経費が必要となる。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	縮小	一次評価のとおり。 平成30年度以降の事業費(一般財源)は、原則的に、平成29年度当初予算の金額から本年度の事務事業評価による額を控除した金額を上限とするとともに、引き続き、効果的・効率的な事業実施に努められたい。